

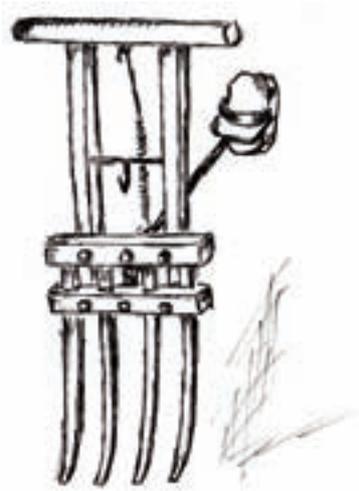
チヨンと突き刺しクレンと起こす

くれんこは人の力で田んぼの土を掘り返す耕作具なんやさ。少し三形に曲った四本刃の鍬がついとって木製のTの字ハンドルをしっかりと握る。土に突きさした鍬を丸い中央の板に片足をのせそれを支点にして手前をひく。

前に進むのはせいぜい四本刃の長さだけで力と根気がものを言った。しばらくして農作業の機械化が進み一番の担い手だった牛や馬が小屋から姿を消した。

広い田んぼの中で耕耘機やトラクターがあればよあれよと言つ間に掘り返していく、便利になったもんさな。

それにしてもあの時代に誰れが考え作りだしたかわからんが、くれんこは実に画期的で且つ進歩的な道具やったんやと懐かしく思い出す。



協力

棚橋 鈴子さん (69歳)

棚橋俊彦さんに保管されていたくれんこの実物を見せてもらいながら、御夫妻から詳しく説明をいただきました。

身近な人からもいろいろアドバイスを頂戴致しました。

あの頃の『広報あんぱち』 ~平成4年10月号の記事より~

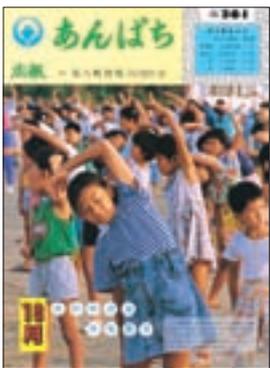
ごみ 25%減量化を目標に

~安八町ごみ減量化推進協議会が設立される!~

あの頃を振り返って

安八町東結 在住
梶井 和子 さん

◎当時、梶井和子さんは安八町婦人会長としてご活躍されていました。



▲表紙

当時は、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図ることが社会全体としての急務であり、また、資源ごみ等のリサイクル運動が盛んになってきていました。そのような状況のなか、安八町でも町民、事業者及び町が一体となって、資源の有効利用やごみの減量化について話し合う「安八町ごみ減量化推進協議会」が設立されました。

当時は、各地区におけるごみ集積場は道路端であり、その管理は婦人会の仕事でした。まだ、ごみ分別化の意識が安八町内に普及されておらず、当時の婦人会の方々には大変なご苦勞であったと思います。あれから20年、町民一人ひとりの責任のもと、安八町全体が減量化・分別化に取り組んでおり現在に至っています。今後この取り組みを積極的に推進していきたいと考えています。



▲ごみ減量化推進協議会の設立総会 (まちのトピックス)